

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	110	事業名	後期高齢者医療・健診事業	担当部課	福祉部保険医療課
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち	会計区分	後期高齢者医療特別会計	
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	予算区分(款 一 項 一 目)		
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち	1-3-1 保健事業費		
	法定受託事務の有無	—			
	その他(関係計画、要綱等)	✓	高齢者の医療の確保に関する法律、愛知県後期高齢者医療健康診査事業実施要綱		
事業開始の背景、経緯等	後期高齢者医療の保険者である愛知県後期高齢者広域連合は、生活習慣病の早期発見、重症化予防のため健康診査を行うこととなっている。愛知県後期高齢者広域連合は県下の市町村に委託して事業を実施している。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 健康診査の実施			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民(愛知県後期高齢者医療の被保険者)			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 対象者が自らの生活習慣における健康課題を認識して、行動変容と自己管理ができるようにする。			
	事業を構成する事務事業(B票)	① 後期高齢者医療・健診事業	改善・見直し	④	
	②		⑤		
	③		⑥		

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	決算	予算	18,524	20,401	24,214	33,302
決算				18,331	20,447	23,246	25,656	
人件費(B)	千円	決算	-	-	571	1,272		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	-	-	23,817	26,928		

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A 健康診査 受診率(愛知県後期高齢者広域連合発表値)	%	目標	46.00	47.00	48.00	49.00	50.00
			実績	45.73	47.89	44.54	45.93	
	B		目標					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 後期高齢者の生活習慣病を早期に発見するための健診の受診率を成果指標とする。								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 健康寿命の延伸に向けて、高齢者の保健事業ではメタボ予防だけでなく、フレイル予防のために、国保・後期保健事業と介護予防の一体的な実施が求められている。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 健診受診率は、ほぼ横ばいの推移となっており、目標の達成はできていない。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 受診勧奨は、前年度受診者及び75歳年齢到達者に対して行っており、未受診者対策ができていない。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 健診未受診者の対策の他、健診結果データの分析による後期高齢者の状況把握、保健事業への活用が課題となっている。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 健診受診率の向上及び健診結果データを活用した保健事業の展開(国保保健事業・介護予防事業との連携)
	中長期の目標	(いっごころまでに事業をどのような状態にしたいか) 健診結果データの分析・活用により、後期高齢者の健康課題を把握し、保健事業に反映させる。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・他の健診関連事業との連携を図ってください。
------	-------------------------	------------------------

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	後期高齢者医療・健診事業		担当部課	福祉部保険医療課	決算書ページ	—
事務事業名	①	後期高齢者医療・健診事業	予算区分	1-3-1 保健事業費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成20年度	終了(予定)年度	—		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 後期高齢者医療被保険者に対して、市内の医療機関で健康診査を実施。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 対象者が自らの生活習慣における健康課題を認識して、行動変容と自己管理ができるようにする。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	18,524	20,401	24,214	33,302	29,034
		決算	18,331	20,447	23,246	25,656	
＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞							
(1) 後期高齢者保健事業委託							24,629 千円
(2) 電算委託							867 千円
(3) 印刷製本費							157 千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
健診受診者数	人	見込	1,452	1,810	1,879	2,136	2,333
		実績	1,628	1,816	1,824	1,994	
		見込					
		実績					
＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞							
後期高齢者被保険者数 4,341人 健康診査 受診者数：1,994人 受診率：45.93%（速報値）							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

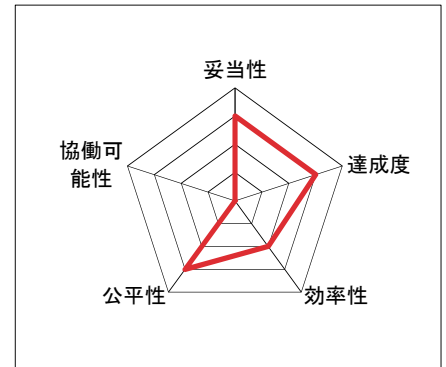
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 健康寿命の延伸に向けて、高齢者の保健事業ではメタボ予防だけでなく、フレイル予防のために、国保・後期保健事業と介護予防の一体的な実施が求められている。
--

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
33,302 千円 29,034 千円 △ 4,268 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 改善・見直し
・前年度【コメント】 健診受診率向上のため、前年度未受診者に対しても受診勧奨を行う。健診受診結果をデータ化して健康課題の分析を行う。健診だけでなく、国保被保険者の実施する保健事業等と連携して生活習慣病の重症化予防事業を実施する。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか) 健診結果のデータ化を行うことができた。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	—



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人）				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況（30年度(2018)） (協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など) これまで活用できていなかった後期高齢者の健診結果のデータ化を行うことができたため、傾向分析を行っている。
--

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など) 後期高齢者の健診結果のデータを基にして傾向分析を行い、健康状態をグラフ化するなどして、広報等で現状を周知する。 フレイル予防のため、国保・後期・介護予防一体となった保健事業を行えるよう連携を図る。
---

## 7. 今後の方向性

改善・見直し